
夢の中の仕事

浅川太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中の仕事

【Nコード】

N7321Z

【作者名】

浅川太郎

【あらすじ】

夢の中、ハンデの名札を着用させられると相談され

(前書き)

政権与党に一言

サラリーマンで、自分の仕事が好き、という向きは少ないのではないか。

それでも、夢の中で仕事をして、起きて夢と気づき、やれやれと思う。

僕は、モノ心ついた頃から芥川など愛読し、将来は作家になることしか考えていなかった。

学生の頃の夢の中、僕は、三方を海で囲まれた昔風の旅館で大傑作長編小説を和風机の上の原稿用紙に書き続けていた。

時刻は夕暮れ、鮮やかな夕焼けを一瞥しながら筆を進めていた。そして目が醒め、不思議なことに綴ってた文章の端々を記憶してた。

作家になろうと渴望してたから見た夢であろう。

ずっと後年、和歌山の勝浦に旅行に行き、泊まった旅館の部屋、そこからの夕焼け、学生の時に見た夢の景色と同じで、不思議な心境となった。

もともと、万が一僕がこれからプロの作家になったとしても、原稿用紙に筆を走らすことは絶対にないであろう。

実は、今朝も夢の中で、小説をテンキー入力してた。ま、現在の執筆状態な訳ですが

特筆すべきは、その小説の内容の断片が、起きてもしばらくは脳裏

に残ってたことだ。

ある若者が、職業のよく判らない僕のところに来て相談してた。

僕って、見て判るように身長が極端に低いですし、ハンデだつてんで、その旨の記載をした名札を常に付けると政府が言うんですよ。

「で、名札をつけて、何かメリットなり、あるの？」 何も無いらしいです。

「ふざけた政府だなあ。そんな名札の着用なんて、やんなくてもいいよ」

と助言するシーンの小説を書いているところで目が醒めた。

その夢が小説になるかと考えたが、没である。

それでも二日酔いの、すぐれぬ頭で、待てよとも考えた。

現在の政権与党は、消費税を10%に上げ、低所得者には、キャッシュバックであろうか、考慮するということ案もあるという。

僕も何を隠そう、堂々とした低所得者である。

これはすなわち「ハンデの名札」を着用しろ、ということに他ならないではないか。

經濟を成長させる妙案もなく、日銀が愚かである以上、僕ら低所得者に「ハンデの名札」着用を義務づける程度オツムの集まり。無くなるハンデであれば、それを無くすが先決のはずだが、泥の中に頭を突っ込んだニョロには、こちらの事情は見えぬらしい

(後書き)

社会を論じる短編、もう1本アップします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7321z/>

夢の中の仕事

2011年12月24日09時48分発行